

高齢者の保健事業について介護の 現状から考える ～医療専門職の果たすべき役割～

生駒市福祉健康部
次長 田中明美

生駒市の介護予防事業の歴史

主なものを
抜粋

【高齢福祉課】

平成11年:介護予防ボランティア養成講座の実施(介護保険制度前)、機能訓練A型・B型から介護保険制度への移行

平成12年:機能訓練教室(住民主体の「わくわく教室」)の開催→現在、9カ所で実施

【福祉支援課】

平成14年:高齢者食生活改善事業の実施(家庭訪問・料理教室の展開)→現・通所型B、地域型ひまわりの集い

平成16年:高齢者筋力向上トレーニング事業(国モデル事業:げんき塾いこま)→現・通所型Cの元祖

平成17年:基本チェックリストのパイロット事業(国モデル事業)→現・介護予防把握事業

平成17年:新予防給付を目指して、市内モデル事業展開→地域包括支援センターの選定に関与

介護予防ケアマネジメントマニュアル作成→高齢者の尊厳の保持、自立支援、給付適正化

平成18年:高齢者体操教室の立ち上げ(のびのび教室)→現・一般介護予防事業に移行

特定高齢者把握事業、二次予防事業の展開→現・総合事業に移行

平成21年:認知症サポーター養成講座の展開→現・認知症支援隊養成講座や支援隊のマッチング事業へ拡充

平成24年:市町村介護予防強化推進事業(国モデル事業)→現・通所型C、訪問型C、通所型B等の事業に移行、地域ケア個別会議の開催(モデル地区)

【介護保険課】

平成25年:モデル地区から全市に広げる準備を始める。脳の若返り教室など、あらたな一次予防教室の展開を図る

平成26年:二次アセスメントツールの作成(市モデル事業)→介護予防ケアマネジメントマニュアルに反映

【高齢施策課】

平成27年:介護予防・日常生活支援総合事業への早期移行→徐々に総合事業のメニュー増

平成28年:ケアプラン適正化事業(国モデル事業)→生駒市介護予防ケアプラン点検支援マニュアル作成・支援(課内に地域包括ケア推進室を設ける)

【地域包括ケア推進課】

平成29年:いきいき100歳体操の展開→現在、77ヶ所(令和1年7月末現在)

平成30年:いきいき100歳体操 1000人大会



始まりは、高齢福祉課所属の保健師3名でのスタートでしたが、現在は、13名の課で介護予防事業を含む、地域支援事業を展開!

生駒市の概況紹介



◆面積: 53.15km²

(周囲60km、南北15km、東西8km)

- ・大阪へ(電車:20分)
- ・奈良へ(電車:14分)
- ・関空へ(電車:1時間)
- ・京都へ(電車:45分)

◆産業

- ☑第1次産業就業者割合:0.8%
- ☑第2次産業就業者割合:20.9%
- ☑第3次産業就業者割合:78.2%

◆生駒市市民満足度調査

定住意向85%!



要支援・要介護認定者数 (H31.4.1)
(第1号被保険者)

基本情報 (H31.4.1)		
人口	119,795人	
第1号被保険者数	33,067人	
	65～74歳	17,298人
	75歳以上	15,769人
高齢化率	27.6%	
ひとり暮らし高齢者数	3,400人	

要支援1	372人
要支援2	735人
要介護1	918人
要介護2	950人
要介護3	668人
要介護4	625人
要介護5	430人
計	4,698人
認定率	14.2%

年度	要介護認定率 (%)
H26年	15.9
H27年	15.6
H28年	14.7
H29年	14.4
H30年	14.2
H31年	14.2

低減

介護保険制度の概要

給付(①)

介護給付
(要介護1～5)

施設サービス

居宅サービス

地域密着型サービス

予防給付
(要支援1～2)

介護予防サービス

地域密着型サービス

総合事業(②)

(A:事業対象者、要支援1・2)
(B:65歳以上の高齢者)

A介護予防・生活支援サービス事業

B一般介護予防事業

包括的支援事業(③)

地域包括支援センター運営

在宅医療・介護連携の充実

認知症施策の推進

生活支援サービスの体制整備

地域ケア会議

任意事業(④)

介護給付適正化事業

家族介護支援事業

その他

地域支援事業

財源構成



①給付

公費(50%)

国20%(施設等15%)
県12.5%(施設等17.5%)
市12.5%
国の調整交付金 平均5%
第1号被保険者の保険料23%
第2号被保険者の保険料27%

②総合事業

公費(50%)

25%、県12.5%、**市12.5%**、
第1号被保険者の保険料23%
第2号被保険者の保険料27%

③包括的支援事業

④任意事業

公費(77%)

国38.5%、県19.25%、
市19.25%、
第1号被保険者の保険料23%

<高齢者と高齢者を取り巻く環境

軽度認定者や虚弱高齢者の特徴の多くに「廃用性」の課題があり、本人・家族・親類・友人・地域社会・介護保険事業所等、それぞれに加齢に対する思い込みや誤った認識が、まだまだ根強くある部分をどう打開していくか？

- もう、歳だからできなくて当たり前
- もう、歳だから頑張らなくてもいい
- もう、歳だから誰かに手伝って貰えばいい
- もう、歳だから無理をしなくていい



自分を待ってくれる人がいたら・・・
自分にできる役割があったら・・・
誘い出してくれる人がいたら・・・

そんな居場所づくりが**要**！



<虚弱高齢者や軽度認定者の傾向を分析>

きっかけ

「痛みやしびれなどの有症状に対する不安」
「生きがいや役割の喪失」「生活習慣病の悪化」




意欲の減退

「できること」や「していること」に関しても、取り組む意欲が徐々に減退（体力・気力・環境等）



経過

大切にしていた趣味や活動を諦め、生活機能はさらに低下



「できそうなこと」を安易に諦めるという
【悪循環】に陥っていく。



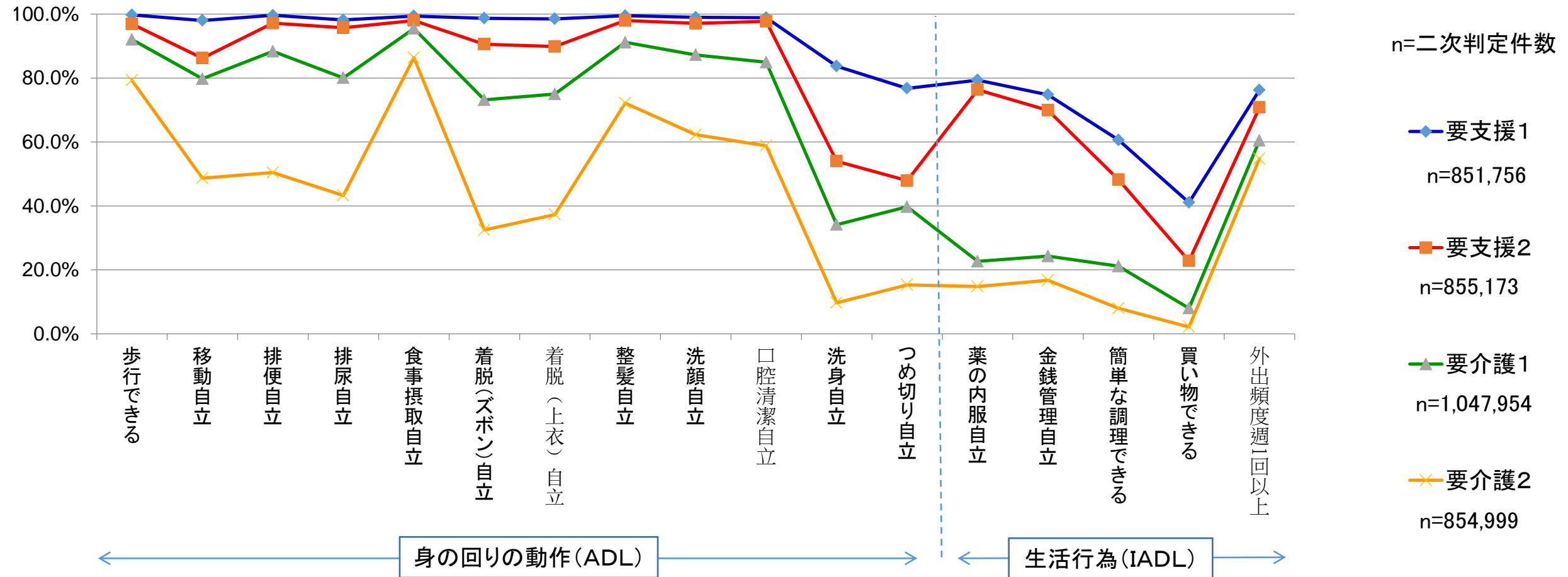
老人保健事業における
機能訓練A型・B型事業と
総合事業って似ています！

ならば……

もう一度、「元気になりたい。」「あの人にあいたい。」「畑仕事を再開したい。」「家族の役に立ちたい」という思いや意欲を喚起しなければ、事態の改善は見込めない。通いの場や生活習慣改善のためのアウトリーチが大切！

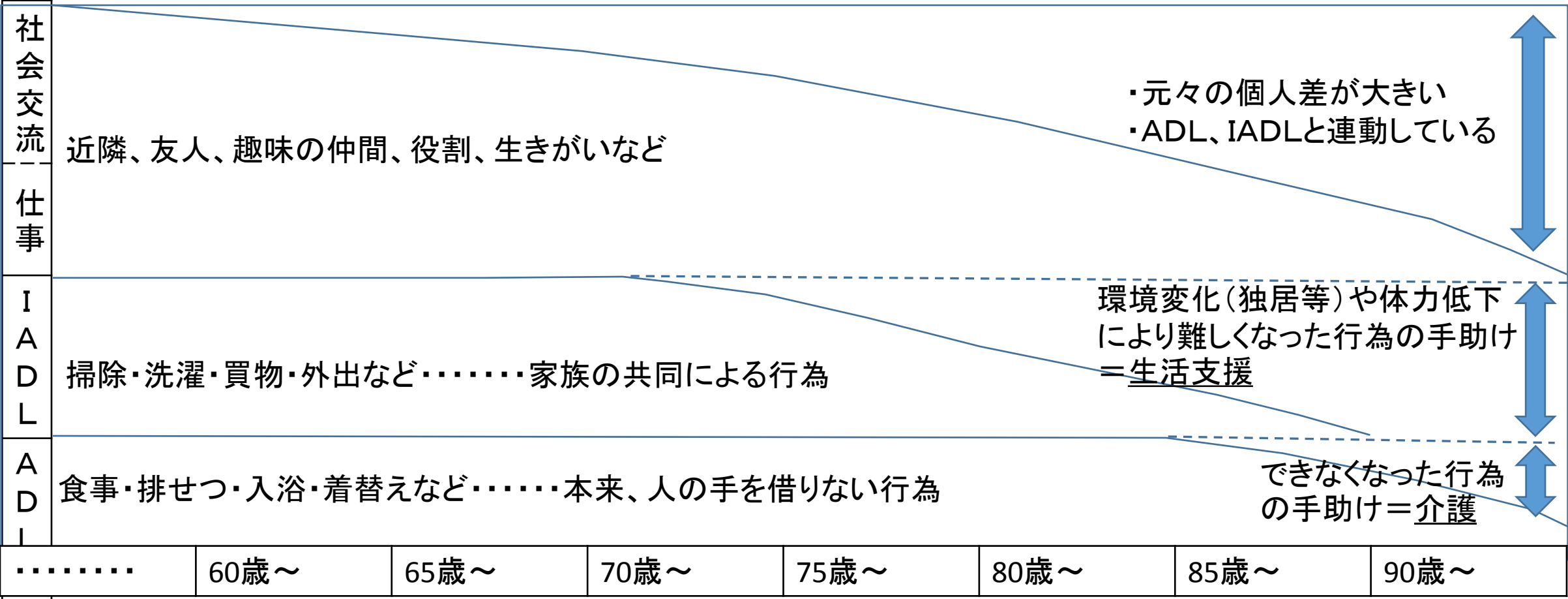
要支援者のケアマネジメントの特徴

- 要支援者は、ADLは自立し、わずかにIADLの一部に援助を要する程度。このため、日常生活上の不自由さを援助し、あるがままの状態を支えるサービス提供が行われてきた。
- 二次的に生じる生活上の問題を予測して、不自由さを最大限軽減する「自立支援型ケアマネジメント」の発想をもたなければ、重度化を食い止めることは困難。



要支援者の自立支援は、その人の生活スタイルに関わることに難しさがある

- ADLの低下に対しては、サービスメニュー（通所による運動・体操・歩行練習など）によって成果を上げる可能性が高い。
 - IADLの低下や社会交流の狭まりは、いわばその人のライフスタイルにかかっていることが多く、長年の生活習慣、生活観、価値観、人生観などに関連しており、その人が自ら活動的な生活を行おうとするか否かがカギとなる。
- ⇒要支援者の自立支援は、実は難しい



総合事業をデザイン ～生駒市独自の体系図を考案～



地域ケア会議(Ⅰ)の様子
(地域ケア個別会議)



評価会議・サービス担当者
会議の開催

ステップアップ!

STEP1

集中介入期

パワーアップPLUS教室
(短期集中C:委託)

STEP2 移行期

短期集中C(*1)
パワーアップ教室(委託)(*1)
転倒予防教室(直営)(*1)
従前相当デイ・ヘルプサービス
通所型・訪問型サービスA

STEP3

生活期

緩和型サービスB
ひまわりの集い
一般介護予防事業

- ・わくわく教室
- ・のびのび教室
- ・脳の若返り教室
- ・コグニサイズ教室
- ・エイジレスエクササイズ教室
- ・いきいき百歳体操
- ・地域巡回ひまわりの集い
- ・送迎付き一般介護予防事業
- ・認知症予防教室
- ・地域リハビリテーション活動支援事業
- ・各種サロン等

START

3M~6M

6M~

GOAL

生駒市の総合事業の実施状況

平成
27
年度

【介護予防・生活支援サービス事業】

- ・パワーアップPLUS教室
(通所C：1教室)
- ・パワーアップ教室 (通所C：3教室)
- ・転倒予防教室 (通所C：1教室)
- ・ひまわりの集い (通所B：1教室)
- ・従前相当介護予防通所介護
- ・生活支援サービス (訪問B：委託1ヶ所)
- ・従前相当介護予防訪問介護

【一般介護予防事業】

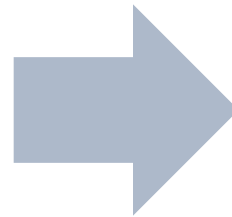
- ・わくわく教室 (9教室)
- ・のびのび教室 (9教室)
- ・地域型のびのび教室 (23教室)
- ・脳の若返り教室 (7教室)
- ・高齢者サロン (40教室)
- ・いきいき百歳体操 (2教室)
- ・地域リハビリテーション活動支援事業

総合事業の啓発にも力を入れて、広報特集号
DVD・パンフレット作成！
包括センター予防部会にて、総合事業説明用
リーフレットを作成！

現場の「生の声・つぶやき」
を活かす仕掛けと仕組み
を作る！

- ・地域包括支援センター会議
- ・ケアプラン点検(確認)支援
- ・医療介護連携会議
- ・実態調査より把握
- ・その他

※何気ない会話から…



地域ケア個別会議を通し
て地域課題を集積し、必要
な事業を創出！

令和
元
年度

【介護予防・生活支援サービス事業】

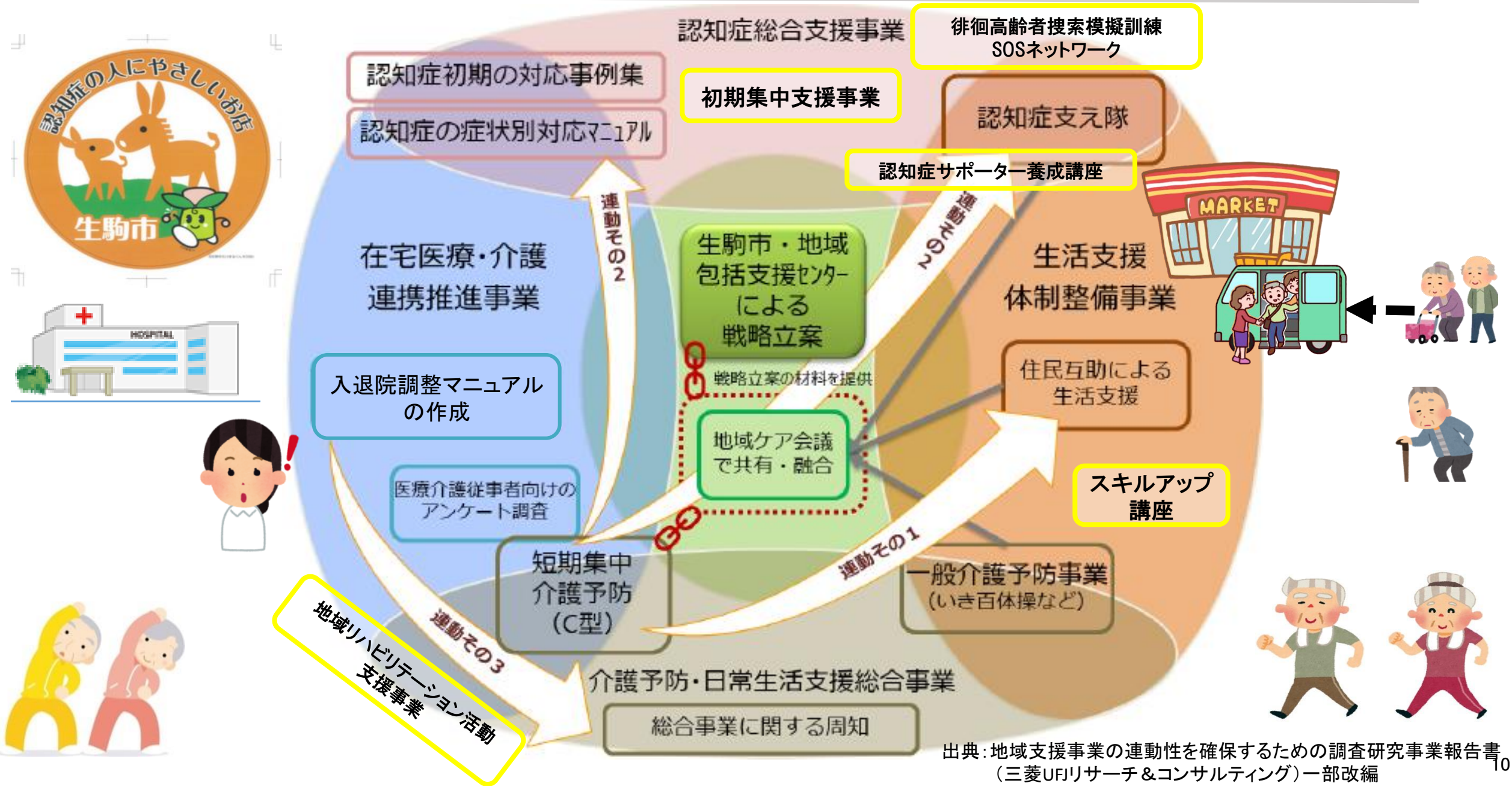
- ・パワーアップPLUS教室 (通所C：2教室)
- ・**パワーアップ教室 (通所C：3教室)**
- ・転倒予防教室 (通所C：1教室)
- ・**ひまわりの集い (通所B：2教室)**
- ・通所型サービスA (通所A：指定5ヶ所)
- ・従前相当介護予防通所介護 (指定53ヶ所)
- ・訪問型サービスA (訪問A：指定18ヶ所)
- ・従前相当介護予防訪問介護 (指定40ヶ所)

【一般介護予防事業】

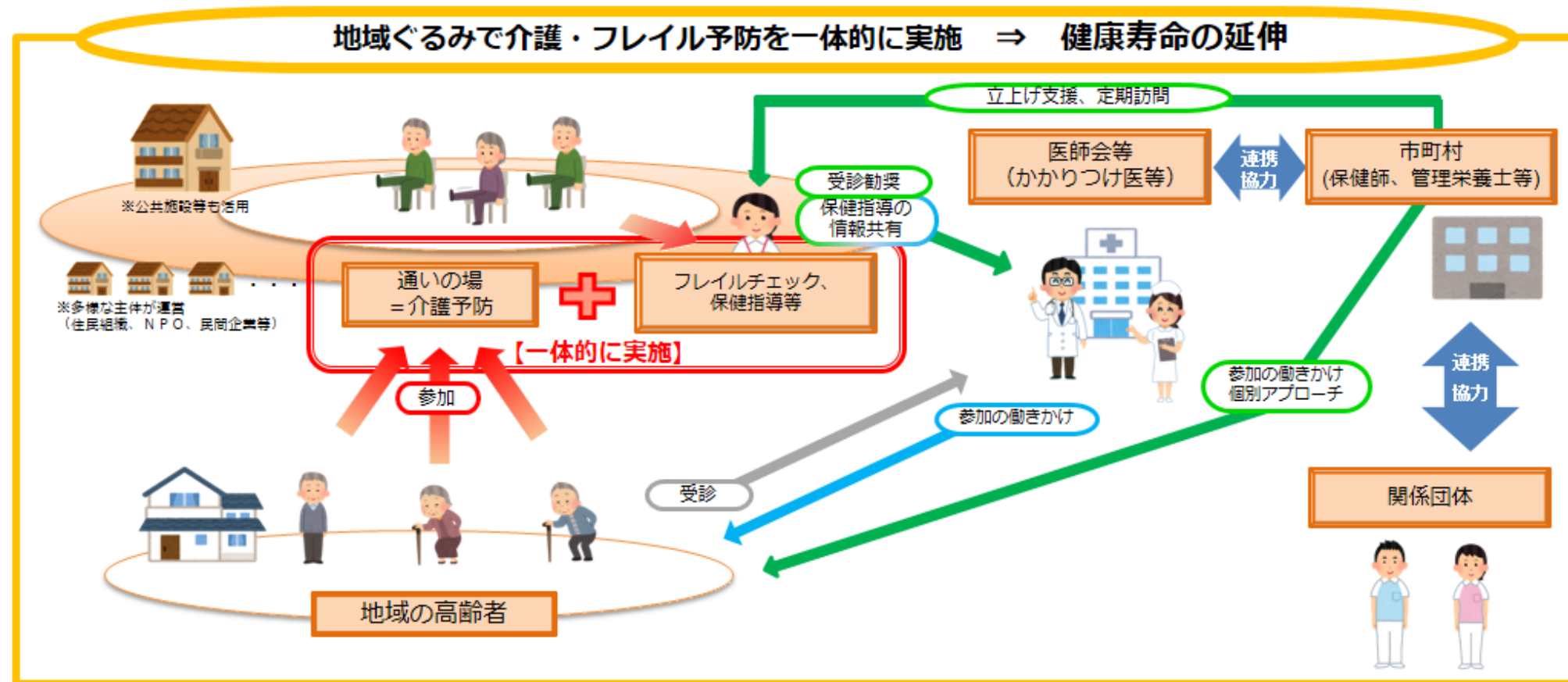
- ・わくわく教室 (9教室)
- ・のびのび教室 (10教室)
- ・地域型のびのび教室 (24教室)
- ・脳の若返り教室 (7教室)
- ・高齢者サロン (43教室)
- ・**出前講座**
- ・**介護予防講演会**
- ・**ボランティア養成・育成研修**
- ・**いきいき百歳体操 (77教室)**
- ・コグニサイズ教室 (2教室)
- ・エイジレスエクササイズ教室 (2教室)
- ・認知症予防料理教室 (1教室)
- ・送迎付き一般介護予防教室 (3教室)
- ・**地域リハビリテーション活動支援事業(拡充)**



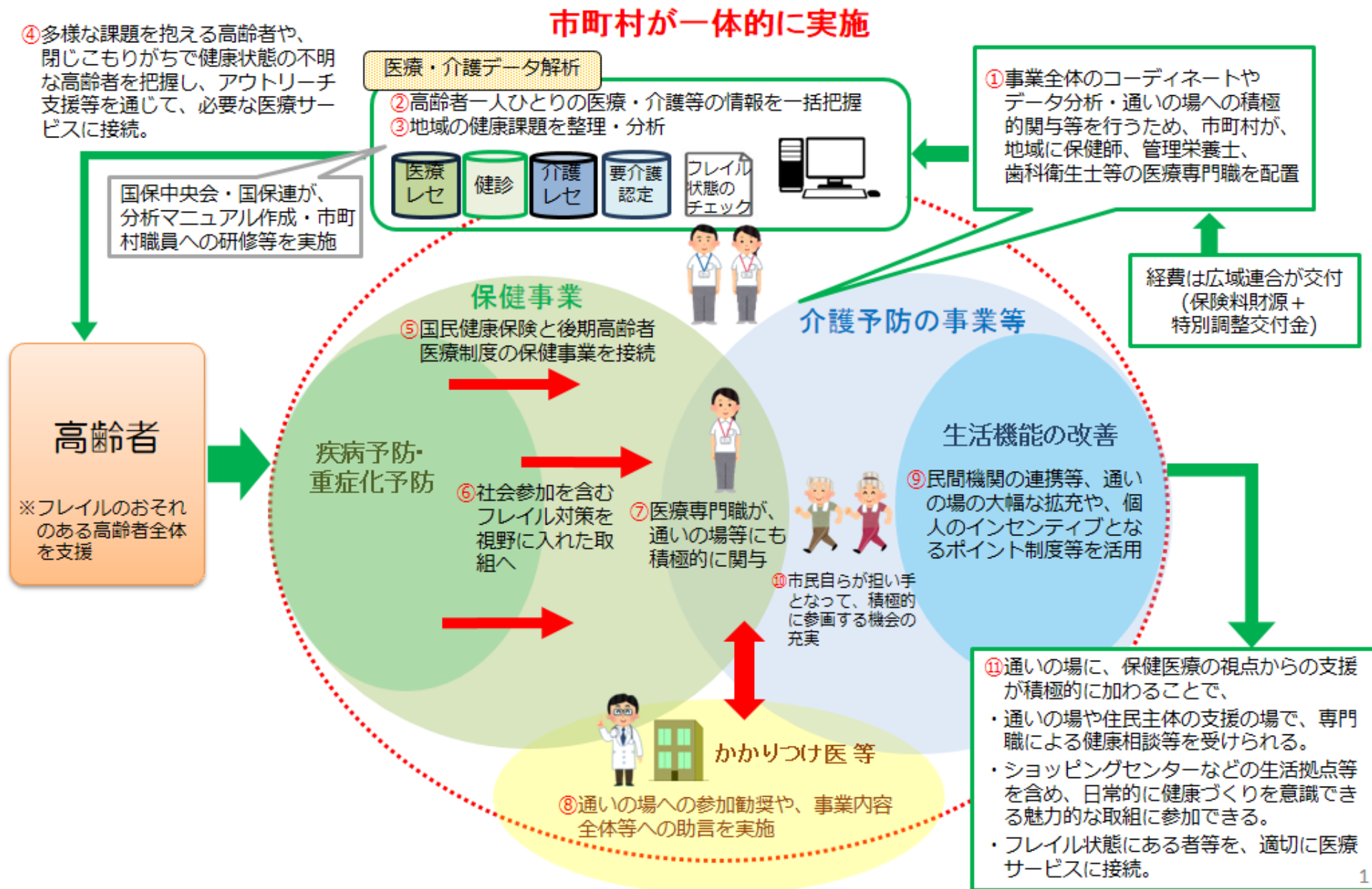
生駒市における地域支援事業の連動性



- 高齢者の通いの場を中心とした介護予防（フレイル対策(運動、口腔、栄養等)を含む）と生活習慣病等の疾病予防・重症化予防の一体的実施。
- 通いの場の拡大、高齢者に対して生きがい・役割を付与するための運営支援、かかりつけの医療機関等との連携。



高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（市町村における実施のイメージ図）



「通所型サービスC」と「訪問型サービスC」 パワーアップP L U S 教室（2事業の連動性）



サポーター



看護師・保健師

理学療法士



スタッフ



理学療法士
保健師



理学療法士



生駒市における地域ケア会議は、3段階方式

生駒市は通所型サービスCの利用者を対象としている

【会議の機能】

個別課題の解決、ネットワーク構築、地域課題発見、地域づくり・資源開発、政策形成

地域ケア会議の種別

地域ケア会議(Ⅰ)

■ 自立支援型ケアマネジメントの検討



初回会議

課題や目標設定、支援内容についての妥当性を多職種で検討！

初回会議までに、計画作成者、通所型・訪問型担当が対象者と面談実施！

ポイント

自立支援に必要な要素について確認。本人・家族の強みを活かす支援。リスク管理の徹底。

必要に応じて事業やサービスの創出を検討することも地域ケア会議の大切な機能である

中間会議

3カ月後の目標に向けてどの程度、達成できているか？残りの課題や目標設定の見直しの是非について検討！

終了会議

目標達成状況の確認！
上手くいったケースは共有！
未達成については、未達成になったそのプロセスを再検討。

介護予防教室に参加、趣味の再開、家庭内での役割の再獲得など

H29年度地域ケア会議(Ⅰ)実績
検討数259件、延会議参加者348人
H29年度評価会議実績
検討数244件、延参加者288人

響働！

自立支援の捉え方

自立支援と聞いて、何が必要だと思いますか？

足を高く上げれるようになった。

5メートル歩行で1秒早く歩けるようになった。

握る力が上がった。

バス停まで歩けるようになった。

歩ける距離が延びて、人に頼らず、買い物できるようになった。

腕は上がらないが、S字フックの活用で、洗濯物が自身で干せるようになった。

階段の上がり降りのコツを学び、エレベーターの無い、囲碁教室への再開が果たせるようになった。

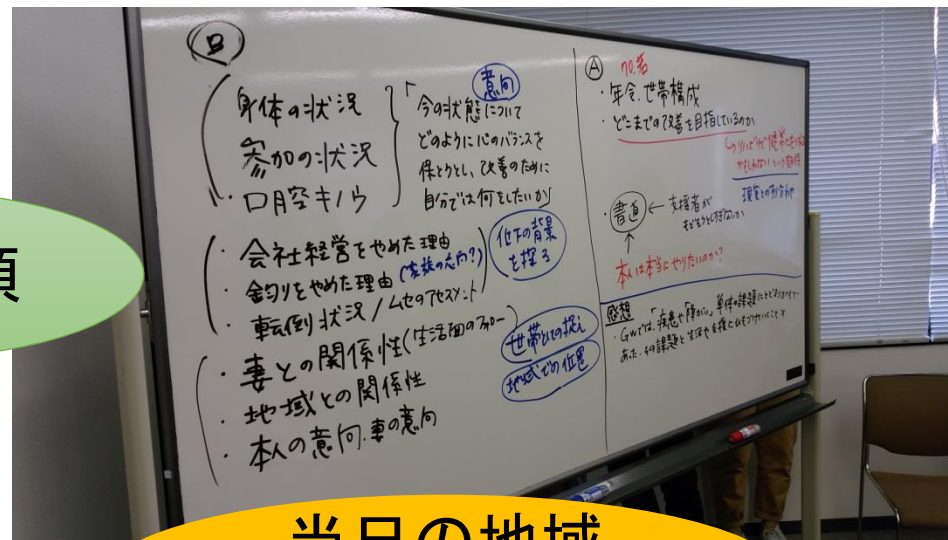
バス停までたどり着けるようになり、地域の通いの場への参加ができるようになった。



事前 打ち合わせ



白板必須



当日の地域 ケア個別会議



中堅・若手保健師の育成
ファシリテートの技術を向上させるため
に、必ず事前打ち合わせの会議を行っ
ている。

パワーアップ教室【通所型サービスC】 転倒予防教室



マット運動（筋力）
バランス・筋力アップ！



ステップウェル（持久力）



【準備体操】
ボールを使ってみんなの
名前を覚えます。



【筋力向上】
セラバンドで筋力向上
トレーニングの実施



4色マット（バランス力）

青・黄⇒緑・赤
バランス力を高めます！



壁押し（筋力）

体幹機能を向上・上腕筋も！



【座学】
転ばない生活に大切な
ことは？復習ですよ！



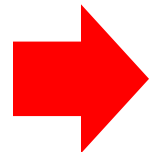
平成30年度 通所型サービスCの成果

	実人数	卒業	一般介護 予防事業	ボランティ ア	セルフケ ア	多様な サービス	給付	中断
パワーアップ PLUS教室	77人	57人	25人	3人	29人	16人	2人	2人
パワーアップ 教室	80人	57人	34人	0人	23人	13人	2人	8人
転倒予防教室	27人	23人	15人	1人	7人	1人	0人	3人
合計	184人	137人	74人	4人	59人	30人	4人	13人
割合	100%	74.5%	40.2%	2.2%	32.1%	16.3%	2.2%	7.0%

※【卒業】は3ヶ月で卒業した人である

※【多様なサービス】は通所型サービスA、通所型サービスBへ参加、もしくは通所型サービスCの継続（残り3ヶ月利用）

※いきいき百歳体操は【一般介護予防事業】に含む。サロン、認知症カフェは【セルフケア】に含む。



約75%が一般介護予防事業やセルフケアへ！

ひまわりの集い ～会食サロン～ (住民主体の通いの場：通所型サービスB)

生駒市健康づくり推進員連絡協議会に委託して事業実施

認知症の人が「デイ」は拒否しても「ひまわりの集い」は通いたいと意思表示！

最高年齢100歳！
要支援1・2の参加



地域のサロンとのコラボにより
鍋一つ抱えて出前で料理！
～地域巡回型ひまわりの集い～

【スケジュール】

午前10時～受付

10時半～ レクリエーション・脳トレ・軽体操など

12時～ 出来立ての料理を皆で会食

午後1時～ 川柳紹介、歌、誕生日会など

現在、出前巡回型サービスへと発展！



地域のサロンと協力することで
よりたくさんの方が参加可能に！

高齢者支援のデザインを考える！

《参加者から担い手になる仕組み》

- ◆短期集中Cでは、卒業生が担い手側に回る仕組み（活動・参加の場）
- ◆ピアカウンセリング機能の重要性（あの人のようになりたい。僕も半年前、君と同じような思いだった等）
- ◆サービス依存型ではなく、自立支援型の良さと「自立」できる人がいることを関係機関・者・住民と共有。

要介護者

要支援者を含む

虚弱高齢者等

一般高齢者（元気高齢者）

《総合事業の有効活用》

- ◆介護給付サービスを拒否する認知症高齢者の活動・参加の場として短期集中Cを活用
- ◆認知症初期～中等度の方の強みを活かしたボランティア活動への支援
- ◆認知症の人の「白杖」になれるサポーターを養成し、「認知症支え隊養成講座」を展開
- ◆一部の要介護者も総合事業を活用、新しく集中C＋一般介護予防事業の一体型創出

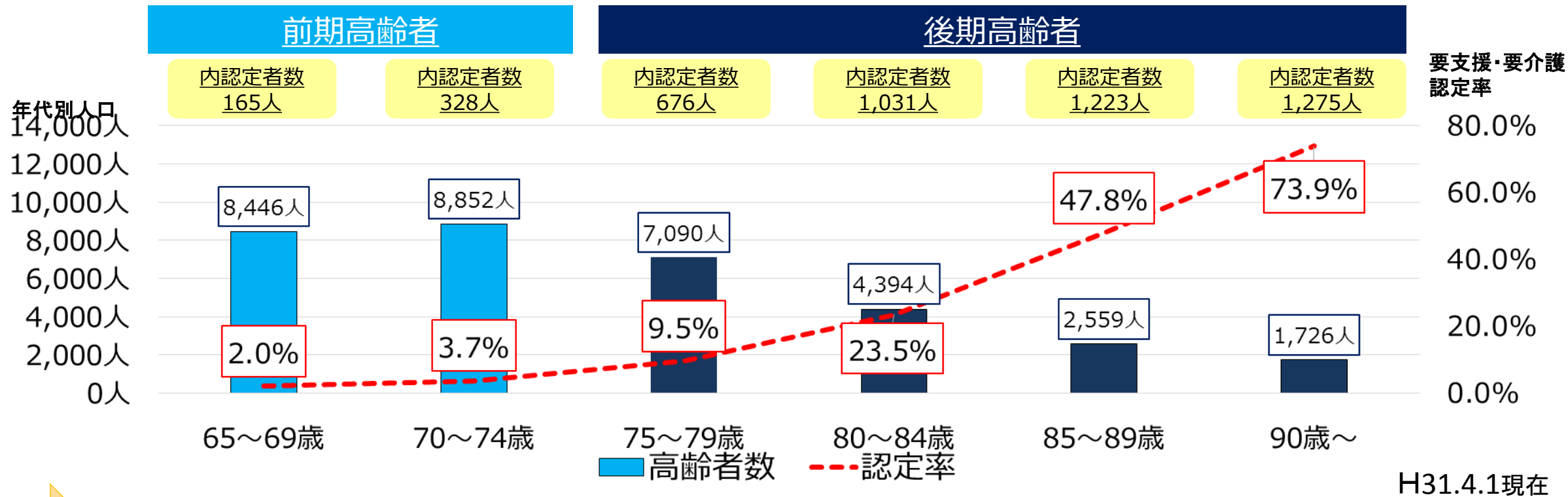
《担い手》

- ◆就労支援（シルバー人材センター）
- ◆ボランティア活動の推進

《活動・参加》

- ◆セルフケアの推進
- ◆生涯学習（仲間づくり・つながり作り）
- ◆健康づくり（健康長寿の延伸）
- ◆介護予防（年齢別・状態像別の事業）
- ◆地域づくり（居場所づくりを加速化）

介護予防事業をデザイン化！ ソフトランディング



【前期高齢者向けの教室等の展開】

- ◆エイジレスエクササイズ教室
- ◆コグニサイズ教室
- ◆地域デビューガイダンスの実施
(ダイレクトメールでイベント案内)

【担い手の募集】

- ◆脳の若返り教室のサポーター
- ◆各種介護予防事業のサポーター

【後期高齢者向けの教室等の展開】

- ◆住民主体の機能訓練教室(わくわく教室)
- ◆体操教室(のびのび教室)
- ◆地域型体操教室(自治会単位)
- ◆いきいき100歳体操
- ◆高齢者サロン
- ◆脳の若返り教室
- ◆介護予防教室(出前講座含む)
- ◆地域型(出前)ひまわりの集い
(食事付き 既存の高齢者サロンに出張！)

座って行えるもので、住民主体を基本に教室展開！



介護予防の推進 ～地域での取組を加速化～

前期高齢者向け事業の展開（自重をかけて、筋トレ・脳トレ！）



前期高齢者向け
エイジレスエクサ
サイズを開始



コグニサイズ教室
身体と頭を使って
アクティブに！

後期高齢者向け事業の展開（座って、みんなと楽しく！）



週1回の通いの場なんてできないと思ってた

市民に週に1回、自主的に運営なんて、恐れ多い！

月に1回でも大変、ボランティアどうするの？

通所Cから元気になる人々の受け皿が欲しい

仕掛けと仕組みをどうするか？
真剣に考え始めた

よその地域と我が町は違うから...

できない理由ばかり...探してしてた頃！

誰と組むかを真剣に考えた

動悸づけをどう図るか？

(○)

常にアンテナを高く！
チャンスは必ず巡ってくる！
1人でも多くの人との関係構築！

PDCAサイクルを考える

- ☑老人クラブ連合会の会員数減少
- ☑民生委員の見守り活動の苦勞
- ☑通所Cの受け皿づくりの課題
- ☑包括支援センターの激務
- ☑市としての施策のあり方

※いろんな課題を関係者と共有する中、乗り越える壁はどこかにたどり着いた

通いの場の必要性について、包括・事業者・市で検討する(規範的統合)

週1回の通いの場「いきいき百歳体操」の展開

先進地へ3回に分かれて全員が視察！

- 市職員
- 地域包括支援センター職員
- 老人クラブ連合会員
- 自治会長
- 民生委員・児童委員



本
気



モチベーション
アップ

更なる普及啓発に向けて

- 啓発DVD作成
- 啓発チラシ作成
- 老人クラブ連合会向け
ボランティア養成講座実施



【気軽・手軽・身軽】を合言葉に！

地域力向上

通いの場を展開する意義

介護予防・認知症予防

- ・週1回外出・運動を実践することで、体力・筋力の維持につながる。
- ・定期的に集まり、みんなと語らうことで、脳を活性化

⇒**地域での生活を維持**

生きがいづくり

- ・椅子を並べたり、おもりを配ったり、主体的な参加を図ることで、社会的役割へと発展し、生きがいにつながる。

⇒**自立支援**

地域とのつながり

- ・誘い合った会場に来る、休んだ人には、連絡を取り、調子が悪いなら買い物や通院の支援を地域行う

⇒**地域づくり**

捉え方によって大きく変わる

①通いの場は単に筋力維持の場所？

or

②役割を持てる場、生きがいにつながる場、地域とつながる場とすれば、互助の仕組みづくりにも発展？

自立支援の一つの場として捉えた時

- ・その場で、各自に何ができるのか
- ・何かの役割を担えるよう、会との調整
- ・継続して、次は何に発展させていけるかなどを地域の通い場創設時に考える事が重要

一般介護予防事業の推進

- ☑身近な地域で取り組めること
- ☑ポイントは、「手軽・身軽・気軽」であること
- ☑リーダーを作らない方法を検討すること
- ☑皆が主役で過ごせるように黒子に徹すること

いきいき百歳体操を拡げることは、
地域をつくること



地域の支え合いの仕組みを強化すること

いきいき100歳体操を地域展開する時にかけた言葉

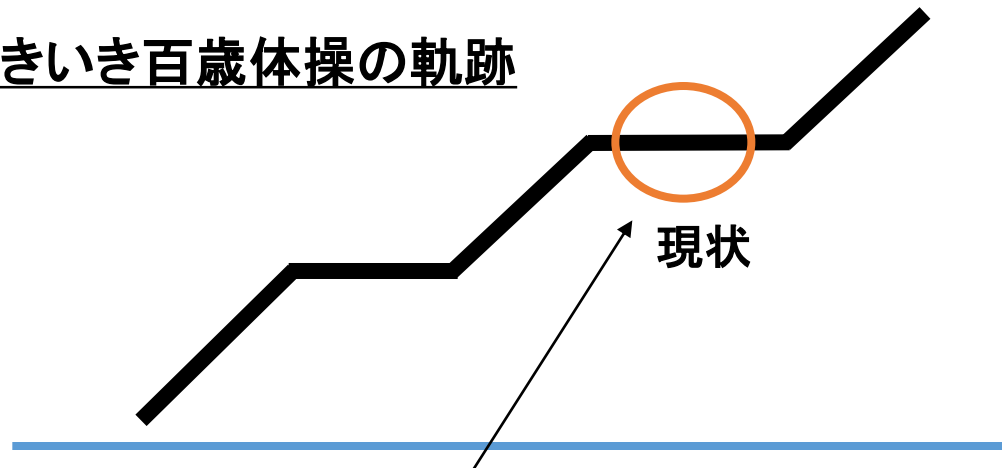
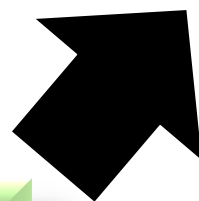
- ☑単純で面白くない運動であること
- ☑ただし、起き上がり・立ち上がり・階段昇降・排泄・移動など、日常生活に必要な筋力アップにつながる
- ☑毎週、会う人ができることで、見守り・支え合いが始まる！

住民主体・地域運営の【通いの場】が増加

平成24年		平成27年		令和1年12月末	
教室名	教室数	教室名	教室数	教室名	教室数
わくわく教室	9	わくわく教室	9	わくわく教室	9
地域型のびのび教室	10	地域型のびのび教室	23	地域型のびのび教室	24
脳の若返り教室	2	脳の若返り教室	7	脳の若返り教室	6
高齢者サロン	35	高齢者サロン	40	高齢者サロン	44
ひまわりの集い	1	ひまわりの集い	2	ひまわりの集い	2
		いきいき百歳体操	2	いきいき百歳体操	79
				コグニサイズ教室	4
				認知症カフェ	5
合計	57	合計	83	合計	173



いきいき百歳体操の軌跡



更に、拡大を目指し、今年度
いきいき百歳体操1000人交流会を実施。
未実施地域の開拓を意識！

「いきいき100歳体操1,000人交流会」開催

経費をかけず楽しく、盛り上がる交流のためのイベント

①お揃いのTシャツを
スタッフ・ボランティア
が着る(一体感)

②みんなでできる体操
を参加者1000人で行
う(あえていきいき100
歳体操はしない)

③ボランティアスタッフ
を120名募集。ボラ
ンティアの食事を健
康づくり推進員が作る

④パネル展示

⑤障がい福祉団体の売
場を設ける



食育を通じて、地域づくり！（生活支援体制整備事業）



環境モデル都市推進課
いこま会議で餅つき



健康課
学童児料理教室



市民活動推進課
あいさつタウン・南ネットワーク
こどもまつり



防災安全課
やまびこネットワーク防災訓練



こども課
おさかな教室



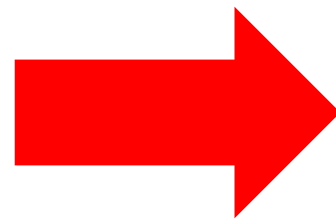
健康課
父と子仲よしクッキング

鹿ノ台 桜美会の取組(老人会)



4つの「場」づくり

1. 仲間づくり
2. 健康づくり
3. 地域づくり
4. 生きがいつくり



自分たちの健康は自分たちで守る！
できることから始めたことが今や
地域の拠り所に！！！！



東生駒地域包括支援センターの取組（例）
 通いの場 **いきいき百歳体操・会食サロン**
 心カフェ（認知症カフェ）
 まちかど図書館

地域包括支援センター職員が法人に掛け合い、
 外来リハビリ室を改修、地域に開放するまちかど交流ス
 ペースを確保！ 身近な場所で認知症の人も安心！

みんなでラジオ体操

最近、市内で参加者が増えているラジオ体操

近所に住むシルバー世代が毎日近くの公園に集って体操。ラジオ1つを持参するのみ。

費用もかからず、健康維持！

他にも、太極拳等 老若男女が毎週日曜日の朝、自然に集まり、皆で太極拳を実施等、様々な活動があります！

長年住んでいるけど近所の人の顔すら知らなかった。

ラジオ体操を通して近所の人と仲良くなれたのは良かった！！



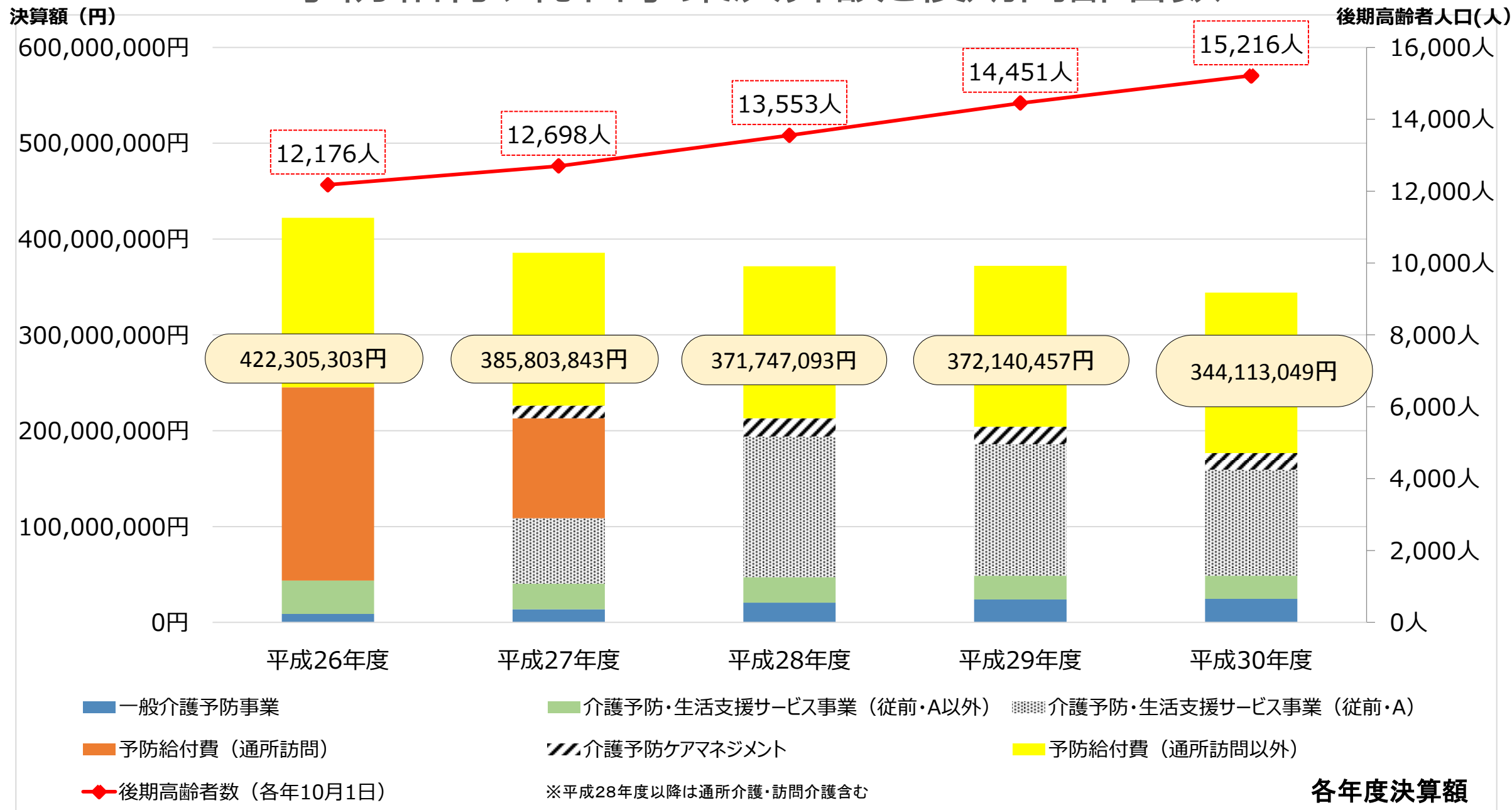
同じ趣味の人とも知り合えた！

体に痛いところはあるけど、みんなが頑張っているから毎日行く！
運動はできる範囲で行うことが大事

休んでる人がいると、「大丈夫かな？」と気になる。
ちょっと立ち寄って顔をみにいくんです！



予防給付、総合事業決算額と後期高齢者数



最後に・・・

**保険事業と介護予防事業の一体化事業への参画
在宅保健師の役割として大切に思うこと**

- 1. 地区診断が苦手な若手保健師に変わり、地域の課題分析の考え方を伝える。**
- 2. 中長期的な課題解決に向けた事業の立案に向けた提案を行う。**
- 3. 事業に必要な予算を確保できるよう担当者の支援を行う。**
- 4. 事業に見合う必要なスタッフ(住民含めて)の基準(例)を助言する。**
- 5. 行政内部を含めた関係機関・者や住民の理解を得る手法を伝える。**

【そのためにお願いしたいこと】

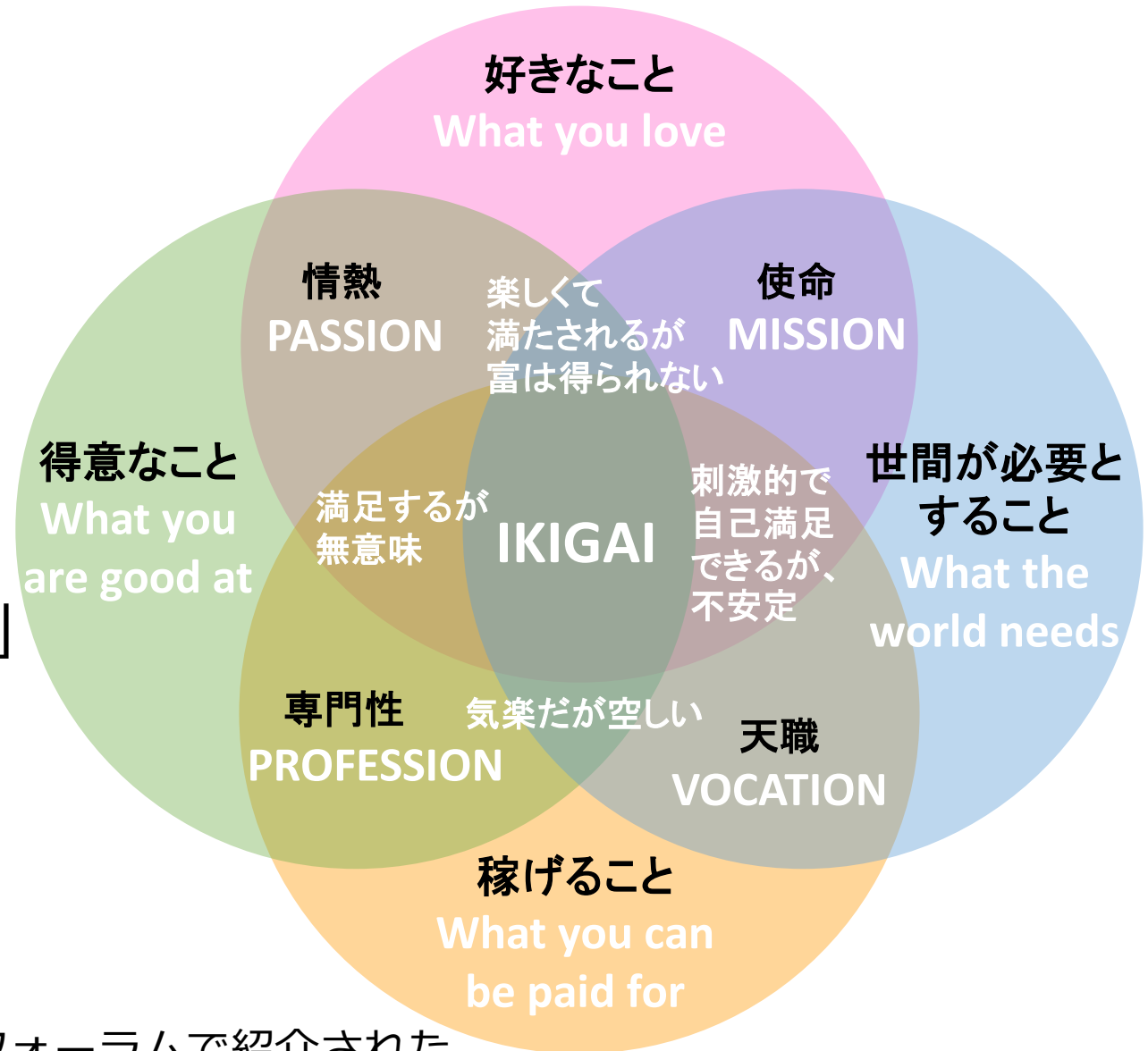
- ・現役世代の保健師等に、公衆衛生に携わる保健師としての生き様を見せる
- 1. さまざまな壁にぶつかっても、決してあきらめないこと。
- 2. その時々状況に応じて、常にやれる方法を考えること。
- 3. 予後予測の視点を持ち、常に先を見越した施策立案を心がけること。
- 4. 予算獲得のためには、費用対効果を示す根拠ある資料作成を行うこと。
- 5. 周囲の理解を得るための、洞察力、交渉力、調整力、プレゼンテーション能力を高めること。

■ IKIGAI (生きがい)

≡ 「生きるを楽しむ」

= 「好きなこと」
「得意なこと」
「世間が必要とすること」
「稼げること」

4 項目の重なり合い



世界経済フォーラムで紹介された
日本独特な概念である生きがいを外国人によって論理的図式化された図